

メッセージアウトライン 創世記11:10～32「セムからアブラムへ」

[10-32]ノアからアブラムに至るまでの系図

モーセ以前の創世記に名前が出て来る先祖たちは一般に族長と呼ばれている。

族 長	誕生年(アダム創造から数えて)	跡継ぎの族長が生まれたときの年齢	死亡年	享 年
ノア	1056	500	2006	950
セム	1556	100	2156	600
アルパクシャデ	1656	35	2094	438
シェラフ	1691	30	2124	433
エベル	1721	34	2185	464
ペレグ	1755	30	1994	239
レウ	1785	32	2024	239
セルグ	1817	30	2047	230
ナホル	1847	29	1995	148
テラ	1876	70	2081	205
アブラム	1946			

バベルでの言語混乱後、各氏族は各地に移動し、諸国民となり、彼らの文化は進み、真の神に関する知識は人々の意識からますます薄れ、代わりに森羅万象を神として拝む偶像礼拝が入り込んできた。しかし、そのような状況でも神の救いの計画は進行していた。神はノアの息子のひとりセムの家系を通して、みこころにかなう人物を選び、そこから一つの国民を起こそうとされる。その人物はイスラエル民族の祖先となるアブラム(後にアブラハムとなる)である。そのため、この11章10節以下の系図はその裏付けとして重要な意味を持つ。

またノアの大洪水後、人間の寿命が急激に短くなっていくことがわかる。ノアは950歳まで生きたがペレグ以下の寿命は239歳よりさらに下降していく。これは地球を覆っていた大空の上にある水（水蒸気の層[1:7]）が大洪水の時に大雨となって地に降り注ぎ、それまでさえぎられていた有害な放射線が地に降り注ぎ、人間の体細胞や遺伝子に悪影響を与え、老化の過程を早めたためと思われる。また大洪水以前の温暖な環境が激変した影響もあるであろう。

[27-28]「これはテラの歴史である。テラはアブラム、ナホル、ハランを生み、ハランはロトを生んだ。ハランは父テラに先立って、親族の地であるカルデヤのウルで死んだ」

「テラの歴史である」…いよいよ聖書の記述は神の選ばれる中心的な家族に絞られていく。

「テラ」は月の神と関係のある名であり、カルデヤのウルは月神礼拝の中心地であった。この町はペルシャ湾に面したユーフラテス川の河口にあった。ヨシュア記24:

2では「…テラは昔、ユーフラテス川の向こうに住み、ほかの神々に仕えていた」と記されている。

「アブラム」は高貴な父という意味。テラの孫であるロトの名があげられているのは、彼の父ハランが早く死に、息子としてのロトが彼の後を継いだことと、やがて語られる族長の歴史での彼の登場に備えるためであっただろう。またアブラムにもナホルにもその時点では子がなかったことも理由であろう。

[29-30]「アブラムとナホルは妻を迎えた。アブラムの妻の名はサライであった。ナホルの妻の名はミルカとって、ハランの娘であった。ハランはミルカの父、またイスカの父であった。サライは不妊の女で、彼女には子がいなかった」

「サライ」は王女という意味。おそらく高貴な父という名のアブラムにふさわしい威厳と気品をそなえた女性であったのであろう。彼女は創世記20:12ではアブラムの異母妹と説明されている。

「不妊の女」…後にサライの不妊が重大な意味を持つがゆえの言及である。

[31]「テラは、その息子アブラムと、ハランの子である孫のロトと、息子アブラムの妻である嫁のサライを伴い、カナンの地に行くために出発した。しかし、ハランまで来ると、彼らはそこに住んだ」

テラは偶像礼拝に満ちたカルデアのウルからカナンの地に行くために出発した。そこには主なる神の導きがあったと思われる。また、彼自身異教から離れ、先祖の仕えた真の神に従おうとの思いがあったのかもしれない。しかし、彼はユーフラテス川沿いに北上し、ハランの地に着くとそこに定住した。ハランは自分の息子ハランが開拓し、その名にちなんで名付けた町であったのかもしれない。アブラムやロトたちもこの町が故郷になるほどに住みつ়ことになる。

[32]「テラの生涯は二百五年であった。テラはハランで死んだ」

26節との関連で、テラが死んだとき、テラの長男は百三十五歳となっているはずなのに、アブラムはハランを出たとき、わずかに七十五歳だったとされている。→ 12:4

この問題の解決は12章で考察する。

大洪水の後、ノアの3人の息子たちセム、ハム、ヤフェテから民族、国民が世界中に広がり、各地に定住するようになったが、神はその中からセムの家系を選ばれ、その子孫を通してご自分の救いの計画を進めようとする。それは11章の系図でわかるように、テラの子アブラムへと焦点が絞られていく。神はこのアブラムの子孫によって人類を救おうとされるのである。

現在の私たちはそのお方こそ、イエス・キリストであることを知っている。神は人間の長い歴史を通してこの世に救い主を送ってくださった。それは私たちを愛する神の愛のゆえである。このお方によってしか、私たちを罪から救ってくださるお方はいない。私たちはこのことを覚え、心からの喜びと感謝とをもって主に従っていくことが大切である。

→ヨハネ3:16、14:6、ローマ1:16、3:23~24